

は弟とは云ぬこと、なれるは、漢籍には姉妹と云るにめなれたるうづりにして、皇國の古稱にたがへり、和名抄などもたゞ漢さまによりて云るものなり、實は中昔までも古の如くにて、姉に對へては弟とこそ云つれ、古今集雜上詞書に、妻の弟をもて侍りける人に云々、源氏物語花宴卷に、朧月夜君のこそを、女御の御おとちにこそあらめなどある類にて、姉に對へては無かりき、

〔今昔物語 二十六〕土佐國妹兄行住不知島語第十

今昔、土佐國幡多郡ニ住ケル下衆有ケリ、己ガ住浦ニハ非テ、他人浦ニ田ヲ作ケルニ、己ガ住浦ニ種ヲ蒔テ、苗代ト云事ヲシテ、可殖程ニ成ヌレバ、其苗ヲ船ニ引入テ、殖人ナド雇具シテ、食物ヨリ始テ馬齒辛鋤鎌鍬父鎚ナド云物ニ至マテ、家ノ具ヲ船ニ取入テ、渡ケルニヤ、十四五許有男子、其ガ弟ニ十二三歲許有女子ト、二人ノ子ヲ船ニ守リ目ニ置テ、父母ハ殖女雇乗ントテ陸ニ登リニケリ、白地ト思テ、船ヲ少シ引居テ、綱ヲ棄テ置タリケルニ、此二人ノ童部ハ、船底ニ寄臥タリケルガ、二人乍ラ寢入ニケル、其間ニ鹽滿ニケレバ、船ハ浮タリケルヲ、放ツ風ニ少シ吹被出タリケル程ニテ、滿ニ被引テ遙ニ南ノ澳ニ出ケリ、澳ニ出ニケレバ、彌ヨ風ニ被吹テ帆上タル様ニテ行、其時ニ童部驚テ見ニ懸タル方ニ无澳ニ出ニケレバ、泣迷ヘドモ、可爲様モ无テ、只被吹テ行ケリ、父母ハ殖女モ不雇得シテ、船ニ乗ムトテ來テ見ニ船モナシ、暫ハ風隱ニ差隱タルカト思テ、此走リ彼走リ呼ベ共、誰カハ答ヘント爲ル、返々求騒ゲドモ、跡形モ無レバ、云甲斐无テ止ニケリ、然テ其船ヲ遙ニ南ノ沖ニ有ケル島ニ吹付ケリ、童部恐々陸ニ下テ、船ヲ繫デ見レバ、敢テ人无シ、可返様モ无レバ、二人泣居タレドモ、甲斐无テ、女子ノ云ク、今ハ可爲様ナシ、然リトテ命ヲ可棄ニ非ズ、此食物ノ有ム限コソ少シツ、モ食テ命ヲ助ケメ、此ガ失畢ナン後ハ何ニシテカ命ハ可生、然レバ去來此苗ノ不乾前ニ殖ント、男子只何ニモ汝ガ云ンニ隨ム、現ニ可然事也トテ、水ノ有ケル所ノ田ニ作ツベキヲ求メ出シテ、鋤鍬ナド皆有ケレバ、苗ノ有ケル限リ皆殖テケリ、然テ斧鎚ナド有ケレバ、木伐テ菴ナド造テ居タリケルニ、生物ノ木時ニ隨テ多カリケレバ、其ヲ取食ツ、